

私は大学でこれをちゃんと成し遂げたっていうの

を、大学生活を終えて誇れるようになりたい

語り手 藤野 瑚子(高校十七期生 法学部)

聞き手 古川桃子

\*

—お願いします。

はい。

—この企画っていうかミッションっていうか。二〇周年で百人の卒業生に聞いてそれを一個の本にするみたいな感じなんですけど。

はい。

—聞きたいこといっぱいあって。立守を選んだ理由ってありますか？

中学三年生の六月のオープンキャンパスで、四年前か。それに参加して、その時に立守ナビゲーターってあるじゃないですか。あれをやっている生徒さんがめっちゃ楽しそうで。中学の時から生徒会とかそういう活動が好きでやってたから。えっこれもやりたいってめっちゃ感じたのと、あとはスタンプラリーとか。ああいう企画楽しくて。まだ受験生なのに気が早いけど、これを来年の受験生に向けてしたいなっていう風に思ったのが結構強くて。あとはやっぱり制服可愛いとか。そういうのもちよつと思ったりしたかな。

—ありがとうございます。ここのエピソードみたいところに生徒会っていうのがあって。その生徒会に入った経緯っていうか。生徒会って結構大変なイメージあるんですけど、入った理由を教えてください。

生徒会が、それこそ中学までの生徒会って委員会の延長みたいな、ち

よつと組織的なことやって。入ってからこの学校の生徒会が文化祭とか行事の運営するとかって知ったけど、入った時はその中学のようなことをするのかな、って思ってた。入るってなったのはやっぱり高入生やから勇気もなくて。ちよつとおどおどして。入ったのが七月とかやったんやけど、三者面談があった時に担任の先生に生徒会やりたいんですけど勇気出なくて、みたいな、言ったらその日に入部届を持ってきてくれはってそこで出して帰った。高一の時の先生の後押しがあって入った感じです。

—一番聞きたいのは文化祭なんですけど、文化祭の運営が思い出に残ってるって書いてあったんですけど。文化祭の運営というのは何をしたんですか？ 具体的にどういうことをしたとかってありますか。

高一は入ったのが遅かったのがあって、全体的なシフトに入るって感じだったけど、二年生から、細岡くんとかがやってみるみたいに、二年生が軸やから、審査、投票、来場者の方の投票とか、審査に関わるお仕事っていうのをさせてもらってました。二年間かけて。投票箱作ったりとか。ペットボトルキャップね。ペットボトルキャップ集めたりしてました。

—中三の時、それ投票しました。ペットボトルキャップのやつ。めっちゃ悩んで、結構劇見に行って。それ作ってたんですね。すごい。

あれを作ったりとか、去年やったら、ボックス作りました。パチンコ玉みたいなのを入れるやつ。あれを作ったりとかをしてました。

—すごいですね。高校での一番の思い出って結構いっぱいあると思うんですけど、一番だったら何の思い出が残ってますか。

やっぱり、生徒会は思い出に残ってる。あとは、ルールメイキング。でもやっぱり、文化祭は結構大きいかな。今、卒業しても誇れる活動み

たいな感じ。

―校外のイベントで、模擬国連とか、RSGF (Rits Super Global Forum グローバルな社会課題を中心に海外生とプレゼンテーションなどを行う。)の国際イベントとか、関西で開催されたイベントとか、結構積極的に参加してたって書かれてたんですけど、その、参加したいなって思った時に、どうやって行動に移すのになって。興味あることがどんなことやったんかなって。

えっと、模擬国連もRSGFも、両方とも、私が二年生の時に友達に参加してるのを見てて、でも、RSGFやったら年に一回しかないイベントやから、その一回を逃したら来年までないっていうのがあって、次は絶対やりたいって思ってた。やりたいとか、興味あるって思ったら、突っ走るような性格やから。高二的の海外研修が一番大きいかな。海外研修に行つて、グローバルみたいなのに目覚めて、高三の一年間はやりたいうって思ってた、で申し込んで行つて、じゃあ次もやろうみたいな。そういうのを繰り返してました。

―海外研修ってちなみにどこ行つたんですか？  
ボストン。今なくなっちゃったけど、アメリカのボストン行きました。

―そこで変わったことってありますか。

海外研修行って変わったこと。ほんまに自分っていう人間が変わったと思つて。それまで文化祭も経験したし、高一の時AMやったから、AMからGLに変わったっていうので、身の回りの変化とかもあったけど、やっぱり自分が所属してるコミュニティってすごいちっちゃいなと思つた。海外行ったら、一緒に引率してくれた方ですらも、私は海外大学出身ですか、東大出身ですか、すごい、やっぱり、幅広い活躍を

してる人っていうのにいっぱい出会って、もっと内側だけじゃなくて、外側にも目を向けたいなっていう風に思つて、ちよつとそこは変わったかな。

―法学部で今何を勉強してるとか、何になりたいとかありますか。

今勉強してるのは、一回生やから学部基礎科目っていうか、本当に法学の入門みたいな。憲法、民法、法律の入り口みたいなところを触ったりとかかな。将来的には、法学部行ったら法曹に進むとかあるけど、私は明確な夢がなくて、高三の進路選択の時も法学部には行きたい気持ちがあるけど、その先どうなるんだろうっていうのは、全然想像がついてなくて。なんで法学部に決めたかっていうと、法学部での学びっていうのは、法曹関係者にならなくても絶対活かせる知識であるかなと思つて。企業に入つても、何かの仕事をするにしても、法律の知識を持ってるってすごい武器だなと思つて。それで将来は、具体的にこの仕事に就きたいっていうのは、まだ見つけられてないけど、今習ってる法律の知識は絶対に活かせる仕事をしたくなって思ってます。

―大学に入ってから、とりあえずチャレンジっていう自分であり続けたいうって、書いてあったんですけど、大学に入ってからチャレンジしたところとか、これからやりたいこととかってあるんですか？

うーん、何だろう。チャレンジしたことは、やめちゃったけど、サークルとかっていっぱいあるじゃない。それで、勧誘の時にとりあえずチラシをいっぱいもらつて、見て、興味あるのを探して、え、ここ行きたいかもみたいなのが見つけて、入りました。それが、その、文化祭の運営みたいなやつだったんです。文化祭の運営をやりたいかもって思ってたんだけど、それは、やめちゃって、で、そのやめた理由が、私が高校で文化祭の運営やったっていうのがあると思うんですけど、なんかその経

験を超えられる自信がないっていうか、高校での経験がすごい思い出に心に残ってるからこそ、これを超えられるような活動ができる自信がないなと思って、早いうちに次に進もうっていうので、やめちゃいました、それは。

―やりたいこととかがあってあるんですか？ これからチャレンジしたいのと、留学とか。

どうやろう。

―じゃあ、高校時代、いろんな経験されてきたと思うんですけど、大学で活かされてる部分あるとか、感じることであります。

生徒会を経験して、仲間と頑張るぞっていう経験したので、この間、学校の中で、衣フェスっていうイベントがあったんですよ。その時に模擬店を出店して、やっぱり初めての試みやったから、模擬店を出すっていうのが、でも、コミュニケーションを取るのが、高校時代の文化祭とか、で、慣れてたっていうか、好きになったから。いろんな学部の人が集まって、建てられた一個の模擬店やけど、多分成功できたかなと思って。楽しかった。衣フェス。一昨日の、このオープンキャンパスで、ルルカフェっていうのをやってみた。ルールメイキング。校則が今日から変わりますみたいなので、水野先生、わかる？ 辻先生と一緒に生徒会してくれた、物理の先生。水野先生に、暇やったらおいでって言うってもらって、卒業生として、お話とかさせてもらったりしてました。だから、二日ぶり学校。こんな自分でも来ると思ってなかった。

―高校の、やるって決まった時の行動力とかがどこで身についたんですか？

中学生の時は、多分、全部受け身だったと思う。そもそも課外活動とかも、ゼロやった。何もやってなかったし、習い事とかも、親に勧めて

もらってとか、受験があったから塾に行ったりとか、それくらいしかなかったから、高校に入ってから、身についたのかなと思って。しかも、高一の時とか、縮こまって縮こまって。

―高入生ってそうでもんね。

高入生？

―そうです。

初め怖くない？ この差何？ って。三年間通って慣れてる人と、初めてここに座りましたの、この差。だから、高一の時の担任の先生には、ずっとモジモジしてるって言われてた。

―どこで変わったとかあるんですか？ 切り替わったポイントってうか。

生徒会に入った時とかかな。生徒会に入って、その、生徒会に、七月に入って、そこで仲間が増えて、違うクラスにも仲間がいるっていう、強いパワーを感じるようになって。でもやっぱり、私的には、ほんまに、こんな喋るようになったのは、高三とかかなと思う。高二、高三で同じクラスやった友達から、そんなキヤラやったつけ？ キヤラ変した？ つてめっちゃ言われるくらい、なんかもっと、隅で静かにしてるタイプやったらしくって。ちよっと自覚あるのが、文化祭とかも、高二やったら、生徒会でクラスはほぼ入れなくて、やっぱりそういう、文化祭とか、仲が深まる時期に、クラスにいたいから。最後の文化祭っていうのもあって、やっぱり、楽しみたい。クラスも楽しみたい。生徒会も楽しみたい、っていう一心で、いろんな人に喋りかけたりとか。夏休みも、クラスの方にも行くように頑張ってたとかしたら、キヤラ変したのになっていう、疑惑が生まれた。変わったポイントはそこかなって。

―将来、大学卒業してから、こんな人になりたいっていうか、夢とか

てありますか？ 理想の人みたいな。

すごいざっくりしてるけど、誰かの役に立てる人になりたいってすごい思ってる。役に立つために、法律を使えたりしたら一番ベストかなって思ってる。なんかね、意外と身近なところで起きてる争い、争いっていうと、大事だったかも。そういうのでも、法律学んでたら、対処できたりしちゃうそうやなとか、思ったり。で、こないだお部屋の掃除したら、小六の卒業のなんか冊子みたいなのに、人の役に立ちたいって書いて。変わってないなと思いつながら読んでたんです。

ーじゃあ今の高校生に伝えたいこととあってありますか？ これやっという方がいよとか。やったことありますか？

やった後悔よりやらなかった後悔みたいなのあるじゃないですか。なんかやりたいって思ったことをやらずにいる必要はなくて、たぶん失敗してもいいからやった方が後悔はないと思います。だからやりたいことはやっちゃおう。やりたいと思った時に突き進もうみたいな。

ー周囲の人、先生とか仲間とか後輩とか生徒会の中とかの関わりで印象に残ってるエピソードがあつたら教えて欲しいです。

エピソードっていうか、まず、高三の文化祭でその審査ボックス、投票ボックス作らせてもらったんやけど、私がほんまに算数、数学苦手、物理苦手のバリバリ文系が設計図を作ったから、その、文化祭の前日の夜七時とかに、あ、待ってこれ、合わへん。穴の位置高さ合っていないよね、ってなってる。もうこれ投票箱今年なしやわってなりかけて。すごい絶望で後輩の目の前でもう涙目になって。やばい、どうしようって。めっちゃ頑張ったけど前日の夜にそのアクシデント起きて。もうこの半年間くらい、文化祭、生徒会の面でも頑張ってきたけどもう終わったなみたいな思ってる。でも帰らなあかんしほんまやったらもう徹夜してでも作

り上げたかったけど。そんなアクシデント起きたまま組み立て上がらなかった投票箱置いて泣きながら帰ったんだけど。帰り道にそのスラック連絡ツールで、先生らからメッセージが来て。なんとか明日これ使えそうやでっていつて動画が送られてきて。それでもう帰り道で大号泣したっていうか。その時、先生も、もう七時とか八時とか、家庭があるのに残ってやってくれはって。後輩も、先輩がんばってたんで、なんとかありますよとか言ってくれたりとか。そういう仲間の支えがあつてこそあの投票箱だったんだって、というエピソードあつたりだとか。アニー

（演劇）させてもらったんだけど。生徒会でクラスの準備に全力注げるか分かんないっていう私にアニーにやってくれへんって声かけてくれたプロ長もいるし、生徒会で行けへんって分かってるからこそ、違う面でサポートしてくれる子たちがいたりとか。そういう支えがあつて両立できたなと思って、めっちゃありがたかったし。それこそ殻を破るために、夏休みの準備期間に一緒にトランプするの誘ってくれたりとかしてくれた子もいて。そういう人たちのおかげで楽しくクラスも生徒会も両立できたのかなって思ってます。

ー生徒会とか文化祭実行委員の経験を通して、自分自身の弱さとか成長を感じることでありましたか。

私の弱さは、いろんな人に言われて、卒業したときに担任の先生にも言われたんやけど、人に頼るのが苦手ってめっちゃ言われて。なんか自分でやろうとしちゃう。投票箱も結構一人で突っ走って、やばい時間ないうっていつて、ガーって作って、結局役に立たなくてみたいな。そういうのもあつて、人に頼るのが苦手やっていうのは、なんかうすうす感じて、当時自分でも痛感してって感じやけど、それを指摘されたからこそ、今、大学に入って、全部を自分ではようとは思わなくなっただけ、そ

れぞれ得意なことってあるから、自分よりスキルが高い人に投げるとって  
いうか。そういうのもちよつとずつできるようになってるんじゃないか  
なとは思いつつ。でもやっぱり、ちよつとは自分でいけるとこまでやり  
たいなって思つて、どこまでもやりたいなって思つちゃう自分もいるん  
かなっていう感じ。

ーじゃあ、何かに挑戦するときに、成功と成長だったら、どっちが大事  
だと思いますか。

うーん。成功と成長。難しい。何かに挑戦するときは、やっぱり成功  
したらいいなと思うけど、そんなオールマイティーな人間じゃないか  
ら、やっぱり失敗もしちゃうかな。そう思うと、成長を取るのかなと思  
うけど、何かちよつと完璧主義的な性格があるから、失敗するかもつてい  
うことに挑戦するのは、ちよつとためらいがあることもあるかな。でも  
やっぱり、成長できる機会を逃したら、もったいないなと思うと、成長  
を取るかもです。自分よりもつとすごい人とか周りにいっぱいいるか  
ら、そこを目指して追いかけていく感じ。

ー今の大学生活で高校とは違うって感じる部分を教えてもらえますか。

大学も一応一回生はクラスがあつて、そのクラスで授業を受けたりと  
か、大講義で授業を受けるとかして、そのクラスのメンバーみんな同じ  
とかあるけど、友達がいつの間にか増えるっていうか、なんか、昨日ま  
でここにいなかったのに、今日はいる。初めましてやけど、なんかめつ  
ちや合うねみたい。それでどんどんどんどん繋がりが増えてくみたい  
な。いろんなところから来てる、いろんなバックグラウンドを持った、  
いろんな経験をした人と出会えるっていうのは、ちよつと高校とは違  
うのかなって思つて。いろんな過去を持つて、でも過去だけじゃな  
くて、私は司法試験に受かるために勉強しますとか、めっちゃ部活頑

張りに来ましたとか、バイトめっちゃ頑張つてるとか。いろんなバック  
グラウンドを持つてる人との集まりができてそれが高校の時と違う。  
一番感じる違いかなっていう風に思うかな。でも、私は初めてのそれこ  
そ友達の友達とかとしやべつて、仲良くなつてとかもあるから、ずつと  
殻に閉じこもつて、向こうから来てくれるのを待つだけじゃ、やっぱり  
あかんなかなっていう風に感じて。

ー結構最後ら辺になつていったんですけど、高校時代から今の大学一年  
生まで振り返つてみて一番の成長ってなんですか？

ちよつとは社交的になつたことかな。誰かともう話し出したらマシ  
ンガンで止まらなくて。で、なんかそういう性格を多分内には秘めてて。  
で高校時代はそれがあんまり出せなかったり、その周りからちよつとお  
となしい子やつて思われたりとか、静かな子とか思われたりとかしてた  
けど。ほんまは誰かと喋りたいし、こうやつておしやべりとか大好きだ  
から、すぐくしたかったけど、それが完全にできたかっていわれるとそ  
うじゃなくて。それこそ高三の夏休みとか文化祭前にそれがちよつと発  
揮されて、文化祭終わつて、またちよつと収束しちゃつて、高校卒業し  
たみたいな感じになっちゃったから、その後悔ちよつとあるし、おしや  
べり、大好き人間つていうのを生かしてじゃないけど、今大学入つて出  
会つた子達といっぱい今感じてることとか、思つてることとか、夢とか  
目指してることとか、本当にただ小テスト頑張ろうねとかそういうので  
も、ちっちゃな会話でも口に出して話すことでみんなポジティブハッピ  
ーになれるから、そういう、無理に頑張らなきゃって思つておしやべり  
をしたりとかじゃなくて、心から自分のキャラっていうか、みんなとお  
しやべりがしたいっていうのをちゃんとさらけ出して、周りの子達と関  
われてるのかなって今は思つてます。

—これからどんな風な大学生活、大人になっていきたいかというのを教えて欲しいです。

大学生活は、やっぱり、後悔はしたくないから。今ちよつと感じてる後悔とかも実際ありはするから、早い段階で対策を立てるというか。もつとその後悔をバネに良い方向に転換して成長していきたいな思つて。それこそ、なんか資格を取るとか、全然漠然としてるけど、インターンに行つてみたいなどがあるから、それをちよつと早いうちから計画立ててとかしておきたいな思つてたりするかな。

高校三年生の冬くらいに、大学生は人生の夏休みつて言われたことがあつて。高校はちゃんと時間割あつて、一限から七限とかがきっちり詰まつて、放課後部活やつたり、課題があつて、決められたサイクルがちゃんとあるけど、大学は一日に一科目しかない日だつてあるし、朝から晩まで入つてる日もあるしつていうので、自分でその時間割も組めるつていうのもあつたり。あとはバイトを空いてる時間に詰めたりとか。

その、先生が言つてたのは、バイトするのはいいけど、後で振り返つた時に大学生活で自分がこれをしたつていうのが、言えへんかつたら、それは大学に行つての意味がないつて言われて。高校生活を振り返つた時に、自分はルールメイキングをしたとか、文化祭頑張つたとか、そういうのが言えたから、同じように文化祭とかルールメイキング以外の、また何か新しいもので、私は大学でこれをちゃんと成し遂げたつていうのを、大学生活終えて誇れるようになりたいなつていう。それをちゃんと探して見つけて、早いうちからやつていきたいなつて思います。

—じゃあ、これでインタビューを終わりたいと思います。本当にありがとうございました。

ありがとうございました。

## 【感想】

生徒会として活動してきた話を聞けて、私とは違つた様々な経験を聞くことができてよかった。大学での生活や学部など自分にとつて身近なことについても聞くことができた。瑚子さんのように自分からチャレンジして、後悔がないように高校生活を送っていきたい。そして、高校生活を振り返つた時に誇れる自分でありたいと思つた。



左：語り手 藤野 瑚子さん  
右：聞き手 古川 桃子